山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第２０４号(通巻第２７１号)

2023 年 3 月 31 日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL　055-220-8325、FAX　055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊コンテンツ一覧＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

■ 第 41 回 教育フォーラム報告

■ 令和 4 年度「第 2 回教師力養成講座」報告

■ 令和 4 年度 教員採用予定者等を対象とした教員就職直前講座
「卒業・修了おめでとう！教師のもやもや解消講座」報告

■ 結びに － 2022 年度をふりかえって －

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第 41 回　教育フォーラム

思考力・判断力・表現力を考える
～論理的思考・批判的思考・コミュニケーションに焦点を当てて～

令和 5 年 1 月 24 日午後 6 時から、教育学部 A 会議室に於いて、第 41 回教育フォーラムを対面と ZOOM によるオンラインのハイブリッドで開催しました。

グローバル化や情報化に代表されるように、社会は加速度的に変化しており、複雑で予測困難な社会で求められる資質・能力として、学習指導要領では、思考力・判断力・表現力が掲げられています。これらを育むためには、他者と対話し、根拠を持って主張を組み立て、結論を導く活動が有効だと考えられます。

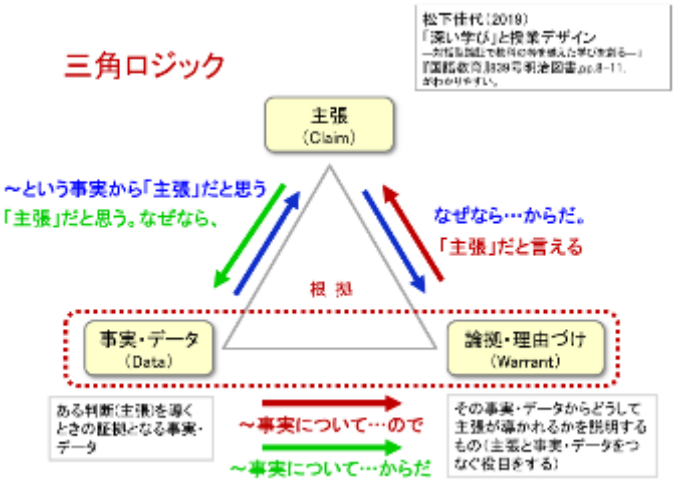
そこで、今回のフォーラムでは、トゥールミンモデルを土台にした「対話型論証モデル」の授業実践を先導されている前田秀樹先生を講師に迎え、「論理的思考・批判的思考・コミュニケーション」を育むための考え方や実践方法について講演いただきました。講演後、附属中学校 小松琢朗先生の実践報告を行い、実践事例や疑問点などについて議論しました。

当日は、小学校 9 名、中学校 10 名、高等学校 10 名、支援学校 1 名、大学・教職大学院教員等 30 名、教育行政 9 名、一般 15 名の計 84 名の申し込みがあり、内 10 名は対面での参加となりました。

＜講演＞

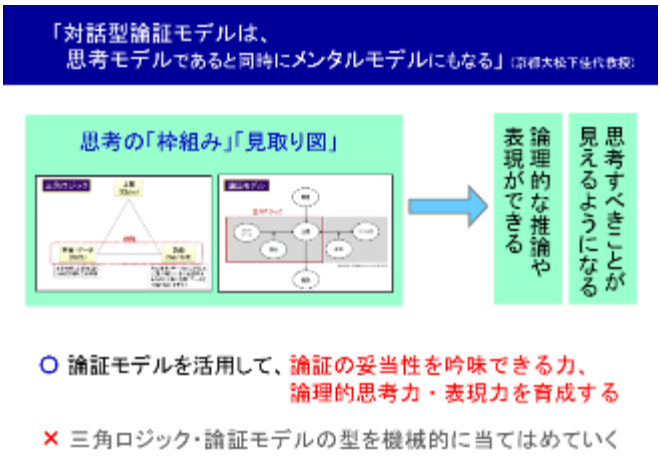
学校法人大阪医科薬科大学高槻中学校・高等学校 教頭 前田樹先生から「思考力・判断力・表現力を考える～論理的思考・批判的思考・コミュニケーションに焦点を当てて～」と題してご講演いただいた。

講演は、 ①対話型論証とは何か、②対話型論証が論理的思考力や批判的思考の育成に有効なのはなぜか、③新学習指導要領における総合的な探究の時間への対話型論証の有効性についてのお話であった。



前田先生の勤務されている高槻中学校・高等学校では、アドバイザーの指導助言を受けて、4 月のテーマ設定から推進チーム研修、全体研修、2 月の公開研究会という年間計画に基づいて AL（アクティブラーニング）を推進している。

高槻中学校・高等学校で進められている対話型論証は、「ある問題に対して他者と対応しながら、根拠をもって主張を組み立て、結論を導く活動である」とされており、問題解決、論理的思考、批判的思考、コミュニケーションなどが含まれた一まとまりの活動として示されていることが大きなポイントである。

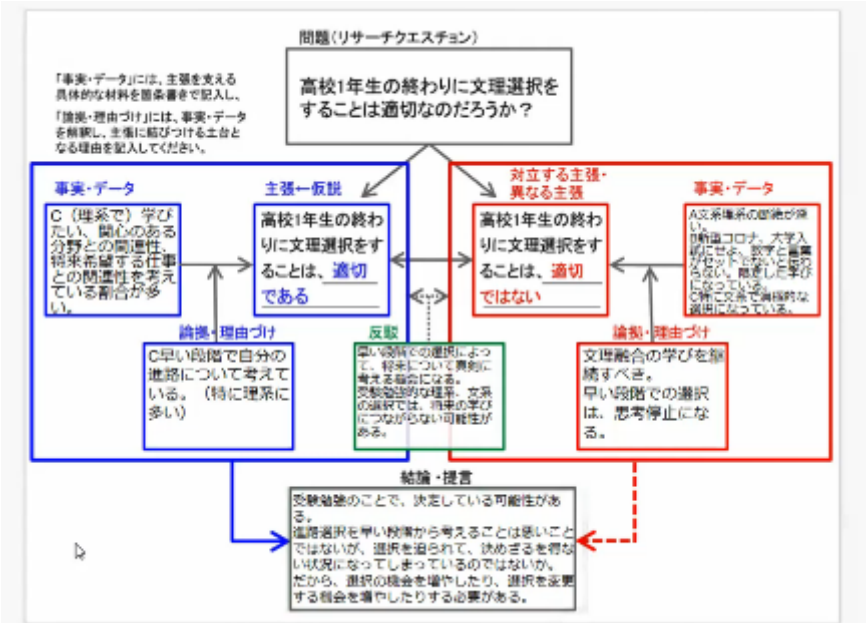


対話型論証は、機械的に研究の型に当てはめていくのではないかと思われることもあるが、三角ロジックを組み立てる際にクリティカル・シンキングの視点（議論の明確化、隠れた前提、根拠の確かさ）を持ち、論理を組み立てていくことで、論証の妥当性の吟味や論理的思考力、批判的思考力の育成に大変有効であると実感することができた。その裏付けとして、大学入試問題や各教科での実践事例を用いて、対話型論証の有効性について説明していただき、さらに理解を深めることができた。

最後に、総合的な探究の時間での活用において、生徒の課題や進度が違っても、教員の意識が違っていても、生徒が自走できるようになることで、個に応じた指導と評価の一体化が図られるという点で、自主性の伸長や論理的思考力の育成に非常に有効な方法であることを理解することができた。

この後、グループに分かれ、対話的論証を実際に体験することができた。「高１の終わりに文理選択をすることは適切なのだろうか」という問いを、Google drive 上のファイルを共有し、話し合いながら「ひな形スライド」に入力していった。このように ICT を組み合わせた体験ができることは、個に応じた指導、形成的評価を行う上で非常に効果的であることを実感することができた。

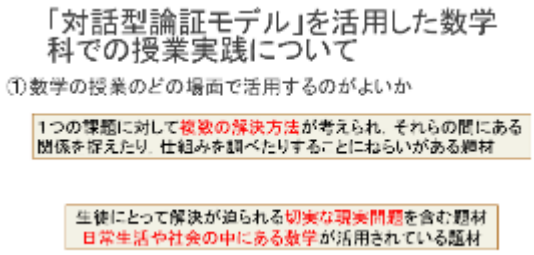
ポスト真実の時代、誰かの主張の正しさを確かめたり、自分自身が正しく主張したりするには、どうすればいいのかという課題に対して、対話型論証はそれへの有効な提案でもあるということが納得できた講演であった。



＜パネリストの発表＞

山梨大学附属中学校　小松琢朗先生から「対話型論証での活用実践について」と題して数学科での取り組みが紹介された。

「対話型論証モデル」を活用した授業実践をするにあたり、①数学のどんな場面に活用することができるのか、②本校数学科の研究テーマである「考えさせる授業の創造」に対してどんな活用ができるのかという、二つの問いに対しての提案であった。



数学の学習では、複数の解決方法が考えられる問題や、日常生活や社会の中にある数学が活用される現実的な問題に対して「対話型論証モデル」を使うことができるのではないかと考えのもと、以下の２つの単元での実践が紹介された。

① 平行であることを活用して、角度を求める問題

複数の解法の「論拠・理由付け」を比較・検討することで、「平行線」が問題解決において重要であることに気付き、補助線としての平行線への理解を深めていった事例であった。

② グラフから原発処理水のタンクが満杯になる時期を予想する問題

社会の中にある切実な問題をグラフから読み取り、解決方法として直近２年間の変化から推測することと、１年間の増加量の規則性から推測することの二つの根拠・理由付けから、三角ロジックを構成した事例であった。さらに、最終的には前者の根拠を使って結論に導いているが、なぜその根拠・理由付けを利用するのかについて、対話型論証モデルに反駁を入れることで立場と論点を明確にできたのではないかという考察がなされた。

まとめとして、関数やデータの活用のように数学を利用する場面において、「対立意見」がある題材に取り組むことで議論を深められたことから、数学教育への活用の可能性を感じることができたとのことであった。

＜意見交換＞

意見交換では、「小学校での実践も可能か」という質問に対して、修学旅行での活用などの身近な例を提示していただくなど、前田先生から的確なご示唆をいただき、議論を深めることができた。以下は質問内容とその回答である。

「総合的な学習・探究の時間、教科等、どの教科においても課題の設定が可能であるか」→「各教科の特性があるので単元等の特性を生かした取り組みとすることで学びを深めることができるのではないか。」

「初心者が始めるにあたり、まず必要なことは何か」→「三角ロジックの構成要素と役割をしっかりと理解することが大切なのではないか。」
「形にはめることにならないか」→「最初はそのように思うかも知れないが、守破離と言われるようにその型を活用していくことで論理的思考が身についていくのではないか。」

＜参加者のアンケートより（抜粋）＞

- ◆ 大変興味があり参加させて頂きました。ワークシートを使用し、思考力の深さや面白さを深めていける様子を小学生に合わせて利用させて頂きたいと思いました。
- ◆ 生徒の成果物をつかむコツがつかめた。
- ◆ 大変勉強になりました。”三角ロジック”を使った授業をやってみたいと思いました。
- ◆ 実際に体験してみて、授業だけでなく、業務にも活用できる考え方になると感じたからです。
- ◆ 対話型論証、早速やってみます！子どもたちの姿が楽しみです。
- ◆ 小学校の理科授業で根拠を明らかにして自分の考えをまとめることにこだわってきた。小学校での学びが今日の講義で間違っていないと感じた。学び直したい。
- ◆ とても参考になりましたが、対話型論証モデルを用いた授業をイメージした時に、かなり難しいと感じました。ただ、内容として理解できた部分もありましたので今後の参考にしたいと思います。
- ◆ 前田先生の御講義、大変参考になりました。研究してみたい方法です。
- ◆ 具体的な実践事例やワークショップがあり、体験的に論理的思考力を育成する教育活動を学ぶことができた。
- ◆ トゥールミンモデルについては，何回か研修で学ぶ機会があったが，今日のように実際にモデルを使っての討議をしたことがなかったので大変勉強になりました。現場でも生徒との授業の中で，活用してみたいと思います。
- ◆ もっとお話を伺いたい、時間がもっとあればというように感じました。見ていた案内にはグループワークのことが記載なかったように思うので、できれば事前のアナウンスがあり、資料も事前に印刷できていれば、グループワークの議論に集中できたかなと感じます。でも、本当にいい機会を頂きました。ありがとうございました。
- ◆ 実践例をもとに説明していただきとても参考になった。
- ◆ 対話型論証モデルを使って、生徒が主体的に探究していくプロセスが明らかになるように講演をしていただいたので、実際の指導がイメージしやすかった。これまでも何度か生徒自身に問いや学習課題を立てさせる授業にチャレンジしながらうまく成果をあげられなかったので、「問い立て」のワークショップを自分も取り入れて、生徒がどこまで自分で問いを立てられるようになるかチャレンジしたい気持ちになりました。著書を購入させていただいて、さらに対話型論証モデルについての理解を深めて、自分の授業実践を改善していきたいと強く思いました。素晴らしい学びの場を提供いただきありがとうございました。
- ◆ 様々な実践を知ることは、大きな刺激になります。子供たちが様々な学び方を体験することが重要だと思いました。また、新しいチャレンジをした小松先生に拍手を送りたいです。子供たちや先生ご自身だけでなく、発表を聞かせていただいた私たちにとっても有意義な時間となりました。ありがとうございました。

- いつも授業で、生徒たちの話し合いで論点がずれている理由をうまく説明できずもどかしい思いをしていましたが、今日のご講演でなるほど！とスッキリしました。ありがとうございます。小松先生の実践も、「初心者」とは思えない生徒たちの思考の深まりがあって、大変興味深く拝見しました。ありがとうございます。
- 実際に生徒が躓いてしまう点もお聞かせいただけたら良かったかと思いました。
- 初の参加で、お話を聞くだけと思い参加しまして、議論があるとのことで少し焦りましたが、教育を志す方たちと有意義な時間となり良かったです。また、講演の内容も会社でも教育でも生かせる内容で、明日から取り組みたいと考えました。
- 探究シートなど一部の児童、生徒には有効だが、実際現場で使うとなると使いにくいと思いました。
- 今回の実践事例は中学校や高等学校が中心ではありましたが、三角ロジックの枠組みを使いながら小学校でも実践してみたいと思いました。小学生にとって自分事として友達と話し合いたいと思える題材を設定することや、事実と理由付けのつながりについて考える授業ができたらいいなと考えています。
- 改めて論理的思考の大切さについて考える機会をいただき、有意義な時間となりました。都合で途中退出させていただきましたが、前半だけでも十分に勉強になる内容でした。今後の実践や研究に生かしていきたいと思います。
- 思考力の育成について、対話型論証、三角ロジックという具体的方法を知られて良かった。
- 教員が論理的思考訓練を受けていなくて、つまり自身は学んでいないから生徒に何をどのような方法で学ばせるか自信を持っていない、だから教えられない、探究や総合学習を尻込みする。そんな教育現場が多い現実もあるのだなぁと感じた。だが、そうだからこそ三角ロジックのこの型を、尻込みしている教員たちの救いの手として実践を通して学んでもらうとともに、何よりも今この時を生きている生徒諸君にこの型を知らせ学びとらせることで次の発展的な学びにつながる素地を作っていく、そんな可能性が広がる道を見た。なお、山梨大学教育学部附属の先生の実践発表があったが、一点気掛かりな点があった。それは数学の指導で三角ロジックを使う場面は、正解を導く過程に多様な解法が存在する場面を除いて数学の場合は、国語、社会科に比べ限定されると述べたことである。一般的にそう断ずるのは理解できるが、数学科専門家の「当たり前の経験則」から離れて、以下のような展開もあり得るのではないか？
- それは、計算問題や求積問題の誤答や証明問題など生徒の誤答ないし論理的不整合の解答を取り上げ、グループで三角ロジックの型を使用して、取り扱う誤答の解答のどこが問題（事実・データ）で、どのように変えていけば良いか（結論・主張）、そのような変更をするための定理・規則や条件及び既習事項（根拠・理由づけ）は何か？を検討する道筋である。当事者としての学友の誤答を取り上げるのは避け、過去の生徒の間違えた解答をストックしておいていたら良い。個に応じた深い学びにつながること請け合いである。
- 論理と探求の広がりについて学ぶことができました。講義のなかにありました「自分なりの問いをたて、自分なりの仕方で、自分なりの答えのたどりつく学び」に生徒たちがたどりつけるよう、私自身研修に努めます。
- 今回の内容は乳幼児期にも通ずるものがあり、終始興味深く参加させていただきました。

zoom での参加でしたが、普段あまり関わることのできない大学の先生方とも意見交換することができて楽しかったです。

- ◆ 前田先生がはじめに仰った「学校は楽しくなくてはいけない」、私も職場では常に職員に話しています。楽しい、面白いと思うところから興味関心が広がり、主体的に物事に関わることができる。実際、小松先生の実践を聞いて、数学嫌いな私が数学を考えることが面白い、と思いました(笑)
- ◆ これまでの教える側の一方通行な教育(保育)から、学ぶ側が主体的に関われる教育がしっかり定着できるよう、これからも私の視点で考え実践していこうと思います。
- ◆ ICT を用いた最先端の授業内容を体感することができ、大変刺激的だった。自分自身が小学校教員という立場で、どのように実践できるかを考えていきたい。
- ◆ 三角ロジックについては、以前から古屋先生の授業を通して知っていたのですが、自分の授業では「三角ロジック」として実践したことはなく、課題解決の方法を説明する際の参考にしていると言った感じでした。初めて自分で生徒側として実践して、今回の例題のような問題で、「事実」とは何なのか？という疑問を持ちました。示されているデータの中には、「他者の意見」が多く含まれており、それを「事実」として処理することに混乱を感じました。単なる名称の問題に過ぎないのかも知れませんが、生徒の立場としては「どうしたらいいの？」となることを実感しました。三角ロジックの三つの頂点の呼び名は、題材によって工夫する必要があるのかな、と自分が実践する場合の参考になりました。ただ、教育法としては、名称を固定して様々な教科科目で実践していく方が生徒の定着にはつながると思うので、校種や各校の状況によっても適切な方法は異なると思います。

〈フォーラム全体について〉

- ◆ タイムリーで有意義なフォーラムの設定、ありがとうございました。
- ◆ 準備から運営、まとめまでありがとうございました。ハイフレックス型の研修で、自宅から参加でき大変有意義に過ごすことができました。子育て世代には、大変うれしい工夫です。
- ◆ いつも興味深いテーマでフォーラムを企画していただき，ありがとうございます。
- ◆ 全国的に気象状況の悪い中、また夜遅くまで、このようなフォーラムを開催いただきありがとうございました。とても勉強させていただきました。
- ◆ 文理選択のグループ課題ですが、事前にどんな活動をするのか、資料を提示しておいていただけたら、簡単に調べるなどの準備ができてより深められるかと思った。私のグループでは裏付けとなるデータをしっかりと提示できなかったので、対話型論証モデルで深められたという実感を持ちにくかった。
- ◆ 本日はありがとうございました。雪が心配だったためあきらめて帰宅しましたが、途中からでも参加できて勉強になりました。
- ◆ 本日は貴重な体験をさせていただき感謝しております。ありがとうございました。
  また、学部長から学生までが一体となって取り組む姿がとても好印象でした。

■令和４年度「第２回教師力養成講座」報告

２月３日（金）、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「第２回教師力養成講座」を開催しました。

本講座は、主に学部２年生を対象に、現場経験豊富な各講師からの講義を受けることをとおし、間近に控えた教育実習への不安や疑問を取り除き、前向きに取り組む意欲を喚起することや、学校という職場のよさや教師としての仕事の魅力、効果的な授業づくりの方法等について学ぶことを目的として企画されました。当日は120名が受講しました。

第１部は、北杜市立須玉中学校教頭の田中一弘先生を講師としてお招きし、ご専門の道徳教育をテーマにした講義を拝聴しました。先生のユーモアたっぷりの導入に緊張気味だった学生の気持ちがほぐれ、会場が和やかな雰囲気に包まれました。その後の講義では、今日求められている「考え・議論する道徳」の実相とそれを実現するための発問や交流等の在り方について、具体例を挙げながら分かりやすくお話しいただきました。また、グループ活動が複数回設定されてあり、課題について考えたり、熱心に話し合ったりする学生の姿が見られました。まさに、「考え・議論する道徳」を体験的に学ぶことができ、教育実習の不安解消へとつながる有意義な時間となりました。

田中　一弘 先生

第２部は、市川三郷町教育長の渡井渡先生を講師としてお招きし、「今日の学校教育の課題～教職を目指している皆さんへのエール～」と題した講義を拝聴しました。いじめや不登校など課題山積の教育現場にあって、児童・生徒理解に基づく専門知識や指導技術、人間性等の重要性について事例を交えてわかりやすくお話をしていただきました。「教育とは未来を創る仕事である」こと、そして「すべては子どもたちの笑顔のために」という渡井先生のメッセージは、教職を目指す全ての学生に勇気と希望を与えていただきました。

渡井　渡 先生

久方振りの対面による開催で、お二人の先生の教職に対する情熱と教育に対する愛情がダイレクトに伝わってくる大変素晴らしい講演でした。受講後の学生のアンケートには、多くの前向きな意見が寄せられ、充実した学びであったことがうかがえました。その一部を紹介します。

【田中先生の講義の感想】

・道徳で必要な能力を知ることができました。答えが一つになるような問いを出すのではなく、色々な答えが正解になるような問いを作った授業をしたいと思いました。
・道徳の授業を考えることはとても難しいし、綺麗事で終わってしまうという思いがあったが、今日の講義を聞いて、教師も生徒もありのままに授業をすることが大事なだと感じることができました。
・緊張がほぐれるような話し方で、グループワークで自由に意見を交流できました。
・主に、道徳科の授業において、「ただ一つの答えを導くのではなく、ひとりひとりの子どもが自分なりの納得解を見つけられるようにする」ことが大切であるということを学び、児童生徒同士の関わり合いを大切に、たくさんの考えに触れさせるような機会を作っていきたいと思いました。
・私の思い出の中で道徳という授業は答えが決まっていてあまり面白くない授業でした。しかしながら、様々な解答を児童とともに考えることで答えはひとつではないことがわかりました。児童にも答えはひとつではない、一人一人最適解があることを理解してもらう必要があると感じました。
・私は道徳の授業がとても不安だし怖いなと思っていました。しかし、先生のお話で、教師が授業をしていく、考えを導くことを主体としていくのではなく、子どもたちがメインで話すことを重要視することが大事だと言うことを知って少し気持ちが楽になりました。特に印象に残っている内容が、意見が孤立してしまった子どもへの声かけについての内容です。誰も気づかなかったことに気づけたんだね、というような声をかけることで子供はとても勇気が出るし次も頑張ろうと思えると思いました。私も声かけの仕方を学んでいきたいです。実習が少し楽しみになりました。

【渡井先生の講義の感想】

・教育が抱える現代の課題について、様々な例をもとに、先生の考えを知ることができました。また、専門性や技術を持つだけでなく、子どもたちの実態について知ること、分かることが大切であることもよくわかりました。
・教育実習でどのようなことに注意して指導したらどのような目的で実習すればいいのかを理解することができました。
・教員として、塾の先生でも近所の人でもできないことは児童・生徒理解であるということが一番印象に残っており、たしかにそうだと、新任だろうができる事だと思ったほか、将来に活きる実践的な内容が多く勉強になりました。
・自分たちが教育現場にとって必要な要素だと言うことが知れて、より教員になる意義を実感できました。そして、教師は授業をするだけでなく子ども理解することが大切であることを改めて気付かされました。
・教師としての熱い気持ちが伝わってきました。教育課題について内容も非常に学び深かったです。それらを通して、教育実習を終えた際には自分はこういう教員になりたいと、なりたい教師像ができれば良いなと思いました。
・教育実習で不安だったことが、授業がうまくできるか、指導案がうまく書けるかなどのことでした。しかし先生のお話の中に教師は授業だけでなく子どもたちをいかによく知るか、子どものことを知っているのは担任の先生だけという話を聞いて、授業をうまくすることも大切だけど子どもたち１人１人のことをよく知ることも大切なのだと学びました。実習でも受け持った子供たちのことを少しでも知ることができるようにしたいです。

ご講義をいただいた渡井渡先生、田中一弘先生ならびに開催を支えてくださった関係する先生方、学部事務の皆様、ありがとうございました。

■令和４年度　教員採用予定者等を対象とした教員就職直前講座「卒業・修了おめでとう！教師のもやもや解消講座」報告

-山梨大学教師塾プログラム 2022-

新たに教員となる４年次生や大学院生を主な対象として、就職前の不安や疑問を取り除き、学級経営など業務の見通しや、初任者としての心構えを持てるよう、若手教員の講話や、学校での ICT 活用に関するワークショップ、客員教授による相談会からなる講座を開催しました。

１年ぶりの対面開催となりましたが、例年より多くの参加があり、参加者のニーズにあった講座となりました。

１　実施時期　　令和５年２月 13 日（月）14:50～17:00
２　開催場所　　LC12～LC17
３　次第
　（１）開会の言葉（小学校会場 LC12・中・高等学校会場 LC16）
　（２）現職教員（本学卒業生）による講座
　　講師「中央市立田富中学校　青柳瑞希先生」「甲府市立国母小学校　武居拓己先生」
　　移動
　（３）附属教育実践総合センター長挨拶（全体会場 LC17）
　（４）学校での ICT 活用のアイディア（ワークショップ）
　　講師「山梨大学　教育実践総合センター　　三井一希先生」
　　移動

（4）何でも質問コーナー（校種会場LC12～LC17）
（客員教授との校種別グループ懇談）（25 分）
（5）閉会の言葉（感想等記入）
4　受講者数　合計 25 名（小学校 11 名　中学校 10 名　高校 4 名）

アンケートより

＊生の声を聞く機会をいただきありがとうございました。早く現場に出て働きたい気持ちが強まりました。
＊不安なことを解決することができて良かった。4月から頑張っていきたい。
＊不安なことについて色々質問することができ、不安も解消できたので良かった。ありがとうございました。
＊ICT の使い方を知ることができたのは、とてもためになりました。質問コーナーでは質問が言いやすい雰囲気で良かったです。
＊現職の先生方からお話を聞く機会はなかなかないので有意義な講座でした。
＊4月からの生活が不安だったのが、明解度が高くなり、何も分からないということが分かったというような現状ですが、生の声をお聞きすることができて不安が和らぎました。それどころかむしろ、私も子どもたちと頑張ってみたいという思いと勇気をもらうことができました。すごく勉強になりました。たくさん困って、たくさん相談をしながら、たくさん先生方を頼りながらでも、頑張ってみたいという思いです。ありがとうございました。
＊来年度から始まる新生活に不安で押しつぶされそうですが、学級経営や ICT 活用等で重要なことをたくさん教えていただき、少し不安が解消されたように思います。残りの大学生活でできる準備を行い、4月から精一杯勤務できるよう頑張ります。

＊とてもためになるお話をたくさん聞けて本当に参加して良かったです。不安でいっぱいで今も不安の量は変わってはいませんが、今回のことでこれからの見通しが持ててよかったです。ありがとうございました。
＊実際に働かれている先生のお話を聞くことができ、非常に分かりやすく、リアリティのある情報を知ることができた。また、 ICT についてほとんど知識がない私にとって勉強になった。ありがとうございました。
＊もやもや解消はもちろん、新しい考え方や見方を身につけられたため、とても学べた時間でした。
＊4月からの現場に向けてとても勇気をもらえました。心配事も軽くなってとても良かったです。
＊とても良かったです。来年から頑張ります。
＊先生方からかなり具体的に、学級経営や初任者としてやっていくべきことなどについて、詳しく聞くことができてよかった。また、 ICT 活用について、実際に機器を使用しながら理解することができた。学部の頃からこのような授業があった方がよかったなぁと思った。
＊数多くの現場の先生方による手厚い指導・講座でした。不安がやわらぎました。
＊講座に出て、モヤモヤを抱えていたのは自分だけではないと感じられて安心しました。授業では聞けないことを現場の先生方から聞くことができてよかったです。まだ、不安は残りますがなんとかなると思って頑張ろうと思えました。
＊実際に働いている先輩の先生から大切にしていることやうまくいったことの具体例などたくさん教えていただけてとても参考になりました。 ICT も今までどう活用したらいいか、どんな場面で使えるのかわからず不安な部分があったので、今回教えていただける場があってとてもありがたかったです。疑問も、自分が忘れていたけれど友達が質問してくれて「気になっていた！」というものもあったので、一人だけではなく複数人で受けられて少し安心して参加できました。
＊多くあったもやもやは解消することができたが、やはり、話を聞いていると自分にできるかどうか不安な部分が増えた。これから教員になる上での心構えはできたので、頑張っていこうと思います。ありがとうございました。

＊現在の ICT 端末の利用状況を確認でき、その有効性を知ることができた。特に「効率化」は生徒にとっても、教師にとっても重要なことだと感じた。質疑応答コーナーで聞きたいことを聞けた。
＊少人数で先生の数は豊富でしたので、質問もしやすく、4 月からのモチベーションにつながりました。とても良かったです。講座を開いていただき、ありがとうございました。
＊先輩の先生からのお話や、ICT を活用した授業を体験できて良かった。教員として大切なことや、教員になるにあたって準備した方が良いことから、服装や部活のことなどのささいなことまで聞けたので、今回の講座でモヤモヤを解消できたと思う。
＊現職の先生にいただいたお話は、これからの心構えとしてとても参考になりました。ICT のワークショップでは授業への活用として学んでおく必要があると感じました。「なんでも質問コーナー」では、様々な質問に答えていただきました。どれも大変参考になりました。
＊本日はこのような会を開いてくださり誠にありがとうございました。また、講義してくださった先生方、準備等をしてくださった先生方にも感謝いたします。さて、大変申し訳ありませんが、途中退席をさせていただきました。しかし、心配を感じていた部分や疑問に思っていたことについてお聞きすることができ、その気持ちが和らぎました。
＊私にとって大学生最後の講義となりましたが、参加させていただくことができて本当に幸せだな、恵まれているなと思いました。4月から頑張ろうと改めて思うことができました。ありがとうございました。

以上のようなアンケート結果からも分かるとおり、大変好評のうちに講座を結ぶことができました。講師の先生方に感謝申し上げます。

また、夢かなって４月より教職に就かれる参加者の皆さんのご活躍をこころより祈念いたします。

■結びに － 2022 年度をふりかえって －

今年度のセンターは、人事異動により多くの先生方の交替がありました。4 月に、教員育成推進部門・附属学校園共同研究部門に中込司特任教授（青柳達也特任教授の後任）、情報教育研究領域に三井一希准教授（成田雅博准教授の後任）、県との人事交流により藤原裕一教授、角田大輔准教授（饗場宏教授、田中一弘准教授の後任）をお迎えしました。教職大学院兼任の客員教授には、秋澤英俊、小川弘一、桐原ひかる、河野瑞穂、斉木邦彦、樋口和仁客員教授（井上耕史、石丸洋一、奥田正治、窪田新治、小林玲子、嶋﨑修客員教授の後任）を、教職支援室客員教授には柴田幸也、小林新吾客員教授（秋山光永客員教授の後任）をお迎えしました。澤登義洋教職支援室長の後任には、望月主税教職支援室客員教授を新たに室長として迎え、澤登先生には地域学習アシスト担当客員教授として 6 月より勤務いただきました。

多くの先生の交替がありましたが、前任の先生方が丁寧に引継ぎをするという温かいバックアップに支えられ、また後任の先生方はそれに応えて、新しい環境の中で任務に一生懸命あたってくださいました。センターでは継続の先生方も含め、ひとりひとりの先生が教員養成・教員育成に関わるセンターの活動の意義を理解し、何をすべきか考え、行動に移してくださっているおかげで、センターの活動は滞ることなく、明るく元気に回っています。

今年度も県と連携しながら多くの教員養成・教員育成推進事業を行いましたが、新しい試みとして、「地域学習アシスト」の活動内容をわかりやすく説明した「地域学習アシストリーフレット」の作成・配布を行いました。県内の教育機関や学校、山梨大学教育学部学生・教員、オープンキャンパスに来訪した高校生等に配布し、地域学習アシストを PR しました。また、初任者研修等における教育学部教員の派遣事業では、近年の初任者増に対応する

ため甲府市も派遣対象に加えました。附属 4 校園だよりの「きりの華」、教員就職直前講座である「教師のもやもや解消講座」等も改善を加えております。

教育現場が教員不足に苦労されている中、教員養成学部として伸びしろのある熱意ある教員を一人でも多く輩出すること、また教員育成においては研修等でのサポートを行うこと、地域の教育に還元できるよう研究活動を推進すること、これがセンターの使命です。まだまだ至らないところもありますが、センター教員みなで考え、行動に移していきたいと思います。今年度もお世話になりました。新しい年度もどうぞよろしくお願いいたします。

（附属教育実践総合センター長　長谷川千秋）